

経営Q&A

回答者

トーマツ ベンチャーサポート株式会社

Morning Pitch 総合プロデューサー

納富 隼平

「現代のベンチャー企業を知る」

第5回：インキュベーションプログラム・アクセラレーションプログラムって何？

Question

【相談者：ベンチャー企業からの相談依頼がある会計士・税理士】

私の事務所では昔から中小企業・小規模事業者からの相談依頼が多かったのですが、最近ではベンチャー企業の方からの相談も増えてきました。

ベンチャー業界では、大企業等が実施するアクセラレーションプログラムというものがあると伺いました。色々なベンチャー企業が参加しているようで、どのようなもので、どのような方が運営しているのか教えてください。

Answerの要点

- アクセラレーションプログラム（≒インキュベーションプログラム）とは、「ベンチャー企業のための成長プログラム」のことです。
- インキュベーションは孵化、アクセラレーションは加速という意味ですが、日本ではあまり区別されず、両方とも「ベンチャー企業の成長を加速させる」という意味で使われています。
- アクセラレーションプログラムの運営主体は、事業会社、VC、官公庁等です。
- アクセラレーションプログラムには選りすぐりのベンチャー企業が登壇するデモデイがあります。



Answer

《執筆者紹介》

2009年明治大学経営学部卒、2011年早稲田大学大学院会計研究科修了。在学中に公認会計士試験に合格。大手監査法人で大手電機メーカーを中心に会計監査に携わった後、トーマツベンチャーサポート株式会社に参画し、ベンチャー支援に従事。

毎週開催早朝ピッチイベント“Morning Pitch”、BtoCベンチャープレゼンイベント“sprout”、ベンチャーとエンジニア・デザイナーマッチングプラットフォーム“faces”を責任者として運営。得意分野はファッションを含む衣食住等のライフスタイル関連のBtoCサービス。ASCII STARTUPでBtoCベンチャーのコラムを連載中。

なお、本記事は筆者の私見であり、トーマツベンチャーサポート株式会社の公式見解ではないことをお断りさせていただきます。

ベンチャー企業の成長を加速させるプログラム

今回は、「インキュベーションプログラム」及び「アクセラレーションプログラム」を解説したいと思います。

「インキュベーション」及び「アクセラレーション」という用語は、共にベンチャー業界以外ではあまり耳にすることはないかもしれません。言葉の意味を辞書で確認すると、インキュベーションは「孵化・培養」、アクセラレーションは「加速・促進すること」となっています。ベンチャー業界では、そこから転じて両方とも「ベンチャーの成長を加速させる」という意味で使われています。

厳密には、「インキュベーション」は「孵化」という意味なのでシード期に対応し、「アクセラレーション」は「加速」という意味なのでアーリー期に対応する気もしますが、少なくとも日本ではあまり区別されずに使用されているようです（アクセラレーションプログラムにインキュベーションマネージャーがいることもあります）。本稿でも両者を区別せずに、アクセラレーションと呼ぶことにします。

アクセラレーションプログラムの種類

アクセラレーションプログラムとは、「ベンチャー企業のための成長プログラム」のことで、その内容は千差万別です。一般的には期間（3～6ヶ月程度が多い）を決めて、その



間にプログラムの関係者がベンチャーに様々なアドバイスを行う、といった形式のものが主流です。また、コワーキングスペースをプログラム受講者に開放して、アクセラレーションプログラムの期間中（場合によっては終了後も）は、その施設の使用を可能としているプログラムも多くあります。また、アドバイスを行うのは必ずしもアクセラレーションプログラムを運営している方々だけではありません。様々な方が「メンター」という形でアクセラレーションプログラムに関わるため、受講者は、様々な観点からアドバイスを受けることができます。

アクセラレーションプログラムでは、「①web（書類）選考→②面接選考→③アクセラレーション→④デモデイ」というサイクルが多いです。デモデイとは、アクセラレーションプログラムの成果発表のピッチ（短時間のプレゼンテーション）のことで、アクセラレーションプログラムの最終結果を披露する場でもあります。アクセラレーションプログラムを上場企業が畝にしている場合、その会社の役職者が来ることもあり、ベンチャー企業にとっては絶好のアピールの場にもなります。

アクセラレーションプログラムの運営主体

アクセラレーションプログラムの主な運営主体は、以下のとおりです。運営主体の属性によって、多少運営目的が異なります。

- ① 事業会社
- ② VC（ベンチャーキャピタル）
- ③ 官公庁

運営主体の属性	アクセラレーションプログラム実施企業例
① 事業会社	東急アクセラレートプログラム、KDDI∞labo、MORINAGA アクセラレータープログラム、LIVE LABORATORY
② VC	Open Network Lab（※デジタルガレージ）、supernova、Incubate Camp
③ 官公庁	青山スタートアップアクセラレーションセンター(ASAC)

※デジタルガレージ社は事業会社でもありますがベンチャー投資もしており、便宜的に VC にカテゴライズしています。

- ① 事業会社
主に上場企業が運営しているアクセラレーションプログラムです。運営会社とシナジー

の見込めるベンチャー企業やビジネスプランを募集しているケースが多いようです。事業会社は、何かしらの事業資産を所有しているので、アクセラレーション受講企業やデモデイ優秀企業がそれらの資産を活用できることが大きな魅力です。多くのベンチャーは通常そのような資産を所有していないので、成長にドライブがかかる良い機会となります。

② VC

ベンチャー企業に投資をするVCですが、ただ投資するだけでは他のVCとの差別化が図れません。そこで、アクセラレーションプログラムという成長の機会を提供することで、差別化を図っているのです。また、良いアクセラレーションプログラムを提供できれば、優秀なベンチャー企業が自然と集まってくることもアクセラレーションプログラムを運営する理由のひとつと言えるでしょう。

③ 官公庁

官公庁の方々が主体のアクセラレーションプログラムもあります。例えば、筆者が所属している監査法人トーマツ、東京都のアクセラレーションプログラムである青山スタートアップアクセラレーションセンター(ASAC)を、東京都からの委託を受けて運営しています。

東京都が運営しているということもあって、主に東京都の政策課題（ヘルスケアや介護等の社会課題、女性起業家を増やすこと等）に合致したベンチャー企業が選定されることが多くあります。

デモデイには参加可能な場合も

以上、アクセラレーションプログラムについてまとめてみました。先述の通り、アクセラレーションプログラムは、ベンチャー企業の成長に貢献するために実施されていますが、プログラムの中には、多くの人に受講しているベンチャー企業を知ってもらう、ということも含まれています。そのため、ベンチャー企業のお披露目会とも言えるデモデイは、誰でも見学ができるようになっていることも少なくありません（当然ながら非公開のものもあります）。また、アクセラレーションプログラムを受けられる企業は応募企業の中でもほんの一握りであり、それゆえにデモデイには選りすぐりのベンチャー企業が登壇する、レベルの高いものとなっています。気になるプログラムがあれば是非チェックしてみてください。

今回はベンチャー業界のトピックスを解説

今回はよいよ最終回です。最後にベンチャー業界で話題になっているワードをいくつか



解説したいと思います。



日本政策金融公庫
国民生活事業